



# 9月のほけんだより

令和元、9、2  
富岡保育園



## RSウイルス感染症、患者報告増加傾向が続く 本格的な流行に突入

台風後、涼しくなったなと思っていたところ、今度は、毎日雨続きで、外遊びに行けない状況です。九州北部では、大雨による被害も報道されています。もうしばらくは、雨が続きそうです。

この季節の変わり目は、朝晩と日中の気温の差で体調を崩しやすい時でもあります。

先週、うさぎ組さんに熱発でお休みのお子さんが出ています。受診された時、「夏風邪、ヘルパンギーナ」と診断されています。今日は、年長さんも2名熱発でお休みしています。お昼までは、食欲もあり、元気だったのに、急に高熱が出たということもあります。お子さんの異常を早期に気付いてあげられるように、ご家庭と情報を共有したいと思います。

今朝のお子さんの表情はどうでしたか？朝ごはんは食べましたか？あわただしい朝のひと時ですが、毎日一緒にいる家族の目が一番確かです。もし、前の晩に熱があったり、いつもより熱が高めだったり、機嫌が悪かったりしたときは、登園の際、職員へひと言お伝え下さい。朝は熱が下がっていても午後から急に上がる場合もあります。お子さんの健康観察、体調管理には十分気をつけてあげましょう。

次にヘルパンギーナとRSウイルスに関する情報をお知らせします。

ヘルパンギーナ

**症状**

夏によくかかる、ウイルス性の夏かぜの一種です。喉の痛みを伴う、39℃以上の高熱が2～4日間続きます。喉の奥が赤くなり、小さな水ほうやかいようが見られるのがこの病気の特徴です。下痢や嘔吐などの症状が出るこ

**家庭での処置**

高熱が出るため、脱水症状や熱性けいれんを起こすこともあります。熱性けいれんの既往がなければ解熱剤で一時的に熱を下げてよいでしょう。水分補給をしっかりと行うことも大切です。嘔吐が見られたり、食欲が著しく低下しているようなら、医療機関を速やかに受診しましょう。感染力はそれほど強くなく、1～4日で熱は治まります。

RSウイルス感染症は、感染力が強く、又生涯にわたって何度も顕性感染を繰り返すと言われています。年長者の再感染例などでは典型的な症状が現れず流行期を効果的に抑制することは困難である場合が多いです。特に、乳幼児の育児にかかわる方は、休日や夜間の診療や問い合わせなどを前もって把握しておきましょう。

RSウイルス感染症に感染すると、1%～3%が重症化するとされています。生後1か月未満の乳児は無呼吸の症状が現れ、ひどい場合には、突然死につながる可能性があると言われていて、注意が必要です。

咳などの呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り0歳児、1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防につながります。

### ☆感染経路

飛沫感染と接触感染です。咳やくしゃみによる飛沫感染や、ウイルスが付着しているおもちゃやコップなどを触ったり舐めたりすることで、感染します。

年長者の再感染例などでは典型的な症状が現れずRSウイルス感染と気付かれない軽度例も多数存在することから、家族間の感染や乳幼児の集団生活施設での流行を効果的に抑制することは困難である場合が多いです。

### ☆予防法

RSウイルス感染の予防法は、手洗い、咳エチケットなどが有効ですが、乳幼児自身が予防することは難しいです。その為、咳などの症状がある年長児や大人は、0歳児、1歳児のお世話は勧められません。しかしながら、お世話をしなければならない時は、手洗いやマスクの装着などで乳幼児に感染させないように気をつけましょう。

### ☆治療方法

RSウイルス感染症には特効薬はありません。治療は症状を和らげる対症療法になります。

国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員 安村義則氏

### RSウイルス感染症

- ・2歳までにほぼ100%の乳幼児が感染
- ・発熱や咳、気管支炎、肺炎の原因になる。
- ・とくに新生児や生後6か月以内の乳児、早産児、ダウン症児などは重症化することがある。亡くなる場合もある。
- ・晩秋からの流行が、今年は早くなっている。

今のところ、当園にRS感染症の感染報告はありませんが、これから感染が予想されます。上の記事は、8月26日、熊本市で開催された「保育の安全」に関する研修会に参加した時、講師の先生から教えて頂いた、感染症サイトに掲載されていたものです。

今月から、ひよこ組に産休明けの赤ちゃんが入園しました。赤ちゃんの命を守るため、私たち保育者も感染症にかからないように十分気をつけます。それで、ひよこ組の保護者の皆様方にもお願いです。これまで、大きい園児は0歳児の保育室に入れないようお願いしておりましたが、これからも引き続きご協力くださいますようお願いいたします。